

全国の支援センターを結ぶ

ネットワーク

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会会報

2021.11
Vol.165

特集

第30回(令和3年度) 全国地域包括・ 在宅介護支援センター 研究大会 概要報告

2

TOPICS 13

連載

日本縦断 センター職員の汗と涙のエピソード 14

■ 栃木県 地域包括支援センターあぐり センター長 池澤 守 氏

■ 宮崎県 西都市在宅介護支援センター幸楽荘 主任 平川 顕三 氏

全国地域包括・在介協からのお知らせ 16

センター職員の
汗と涙のエピソード

栃木県
地域包括支援センター
あぐり
センター長
池澤 守 氏

有償ボランティアから学んだこと

栃木県北部に位置する那須塩原市は人口約11万人で、豊かな自然に囲まれ観光、農業、工業などのバランスも良く暮らしやすい地域です。特に酪農においては、本州一の牛乳生産量を誇ります。

当センターの担当する圏域内にはシニアセンターが設置され、そこでは介護保険認定を受けていない65歳以上の皆様が、マシントレーニングやプールでの体操を行い、体力増強や健康保持に取り組まれています。体操関連以外にも、麻雀卓があったりパソコン教室が開かれたりと、交流の場としても活用され、自家用車を運転して通っている方も多いです。

そこを利用する皆様が、利用者同士で通院のお手伝いを始めたこと等がきっかけで、有償ボランティア団体として活動することになった、「らくらくサポーター」についてご紹介させていただきます。

団体創設期の活動内容等を検討していた頃は、無償で通院等の支援を行うことを検討していたようなのですが、サポーターとして集まった人達から、「無料というのも頼みにくいのではないか？」という意見があり、1時間当たり600円の費用負担で、介護保険の訪問介護等では対応できない日常生活上のお手伝いや、買い物・通院時の送り迎え等を行うようになりました。

利用者には、あらかじめ利用料金として3千円分のチケット(1枚600円のチケットが5枚綴られています)を購入して頂き、サービス利用時に提供時間に応じた枚数をサポーターさんが受け取り、毎月の

ミーティング時にチケットを換金します。

開設当初は数名程度だったサポーターさんも現在は20名程になりましたが、利用登録者数は98名と増加しており、どうすればサポーターさんを増やしていけるかが喫緊の課題です。

私は毎月のミーティングに出席し、サポーターさんが抱えた課題や疑問等を一緒に考え、微力ながら助言や情報提供等のお手伝いをさせていただきました。

例えば、通院の支援を行うにあたってプロとボランティアの線引きをどう考えるのか、1時間600円としているが利用者側の急な都合で1時間を超えてしまった場合どうするのか、チケットを紛失してしまった場合はどうするのか等と、様々なことを一緒に考えさせていただきました。今思えば、サービスを企画するにあたって、サポーターの皆様が前向きに無理なく継続できるための、プレーキ役的な立ち回りだったように感じます。

個別のケース対応に関する話し合いにも参加させて頂き、真剣に支援内容を検討している姿からは、人として寄り添った支援とは何か？ ということ逆を教えて頂いたと感じております。

特に印象深いケースとしては、飼育猫へ深い愛情をそそぐ一人暮らしの方のケースと、サポーターさんと一緒にコンビニのイートインコーナーでコーヒーを飲む時間をとても大切にされている方のケースです。愛猫家への支援については、価値観とは何なのかということを深く考えるきっかけとなり、また、コーヒーを一緒に飲む時間については、社会的孤立感とは何か？ そして人と人とのつながりが、その軽減を図る上ではとても大事だということを改めて理解することができました。

今年10月、コロナによる緊急事態宣言が解除され、しばらく休止していたミーティングがようやく再開されました。再会を喜び合う姿を見ることができとてもうれしく感じましたし、今後もミーティングに参加させて頂けることに感謝し、少しでも支えになることができるよう努めていきたいと思ひます。